

「なごや丸ごと鳥さがし!!」で見た!聞いた!

「なごや生物多様性保全活動協議会」(*)と協働し、「日本野鳥の会愛知県支部」の協力を得て、1月29日(日)に「なごや生きもの一斉調査・2011野鳥編 ~なごや丸ごと鳥さがし!!~」を実施しました。広く市民の皆さんからも参加者を募集し、名古屋市内45箇所で600名が参加する大規模な調査になりました。

(*)市民・専門家・行政といった、さまざまな立場の人が参加する協働組織。なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来生物の防除などを通じ、身近な自然の保全に取り組んでいる。平成23年5月設立。

市内で91種の野鳥を観察

この調査では、91種、15,402羽の鳥が観察されました。市が概ね5年ごとに実施している野鳥の生息状況調査では、冬に見られたことのある野鳥が約110種なので、そのほとんどを観察できたことになります。

調査地ごとに見てみると、野鳥の種類が最も多かったのは藤前干潟(藤前活動センター側)の35種でした。藤前干潟(名古屋野鳥観察館側)、平和公園、牧野ヶ池緑地、農業センター・針神社でも30種以上の野鳥が観察できました。

個体数は藤前干潟(藤前活動センター側)が最も多く、藤前干潟(名古屋野鳥観察館側)、天白川河口、大江川河口でも数多くの水鳥を観察できました。名古屋屋に注ぐ河口が、水鳥にとって重要であることがわかります。また、おもしろいことに、オナガガモは藤前干潟に、ホシハジロは天白川にと、棲み分けがあるようです。

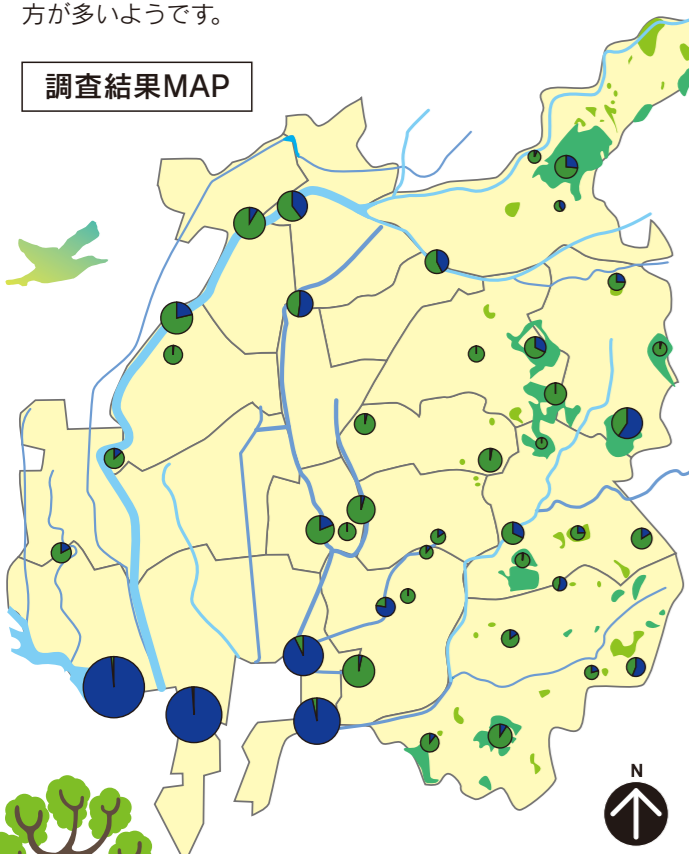


オナガガモ ホシハジロ

カラスやハトにも種類がある!?

参加者からは「カラスやハトに種類があることを初めて知った」という感想を何件もいただきました。そのうちカラスは、ハシボソガラスが567羽、ハシトガラスが287羽でした。ハシトガラスは森林性であり都会では少ないと言われていますが、今回の結果でもその通りでした。ハトはキジハトが348羽、ドバトが1,469羽でした。こちらは圧倒的にドバトの方が多ようです。

調査結果MAP

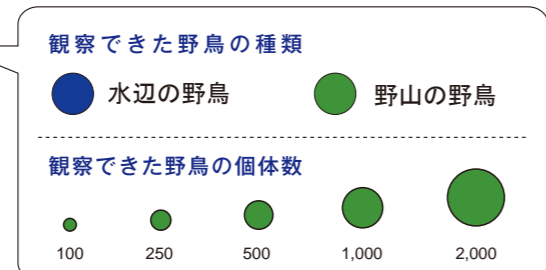


身近な自然に触れるきっかけに

「身近にこんなにたくさんの鳥がいるとは知らなかった」「いつも見かける野鳥の名前が初めて分かった」「〇〇がきれいだった」などの感想が多く寄せられました。「これからも野鳥の観察会などに参加したい」との声も聞かれ、身近な自然や生きものに関心を持つきっかけにいただけたようです。

また、野鳥はそれぞれのエサやすみかにあった、くちばしの形や体の色をしています。野鳥を観察することから、やがてエサや巣、季節変化などを通じ他の生きものとの関係が見えてきます。

ぜひ、皆さんも身近な野鳥を観察してみてください。



活動展示会 & 夏休み生物多様性講座

市民の皆さんとともに取組んでいる生物調査などの活動について、生体(実物)やパネルなどを展示します。また、講座では顕微鏡や標本を使って楽しく生物多様性の世界にご案内します。

活動展示会 8月25日(土)、26日(日) 10時~16時 [2日間の期間限定です]



夏休み生物多様性講座 8月25日(土)

時間	10時30分~12時	13時~14時30分
講師	名古屋大学博物館准教授 西田 佐知子さん	愛知みずほ大学人間科学部講師 川瀬 基弘さん
内容	「身近な葉っぱの観察から生物多様性の世界へ」 なごや生物多様性センター敷地内外を講師とともに歩きます。その後、顕微鏡やルーペを使用した葉っぱの観察をきっかけとして、植物の世界から生物多様性を学びます。	「なごやの陸貝から見える生物多様性」 カタツムリ、ダンデムシ、マイマイでおなじみの陸貝の不思議な特徴を説明し、陸貝の標本を観察しながら生物多様性を学びます。
対象	小学生または中学生30名(小学生は保護者同伴)	小学生以上50名(小学生は保護者同伴。大人だけの参加も可)
募集・申込	事前申込・応募多数の場合は抽選(※8月15日)。確定次第通知します。グループで申し込む場合は大人と子ども合わせて3名以内。 申込方法 電子メール、はがき、ファックスにて ①講座名「葉っぱ」または「カタツムリ」②お名前と学年(複数の場合は全員のお名前と小中学生は学年)③郵便番号・住所④電話番号(あればFAX番号)を明記のうえ、なごや生物多様性センターに申込	

問い合わせ・申し込み先

- 住所:名古屋市中区白区元八事五丁目230番地 (地下鉄増釜口2番または3番出口から徒歩5分)
- 電話:052-831-8104
- FAX:052-839-1695
- E-mail:bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp
- なごや生物多様性センターウェブサイト <http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity/>
- 名古屋市公式ウェブサイト <http://www.city.nagoya.jp>
- 関連ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>

「なごや生きもの一斉調査」

「なごや生きもの一斉調査」とは、身近な自然の現状について関心を持って見ていただくきっかけとして、専門家とともに名古屋市内の生物を一斉に調査する活動です。

平成23年度の鳥調査に引き続き、平成24年度の調査は陸貝(カタツムリなど)を調べます。

実施予定日 10月6日(土)、7日(日)、8日(祝)

会場 名古屋市内30箇所程度

対象 どなたでも参加可能 ※参加者の募集は、8月上旬から行います。詳しくは協議会ウェブサイトをご覧ください

「市民生きもの調査員」の募集

なごや生物多様性センターでは、生きもの調査などの活動を市民協働により行っており、ご参加くださる方を募集しています。

詳しくはウェブで。



この広報紙は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

生きものシンフォニー

発行 名古屋環境局 なごや生物多様性センター

3号 平成24年7月

なごや生物多様性センター改装工事終了

青空の下 開設記念行事を開催



多くの来賓の方々に参加していただき、なごや生物多様性センターの開設記念式典を5月12日に開催しました。好天に恵まれ、吹奏楽の演奏で華やかに幕開け。展示、ワークショップや講演などで、大勢の市民の方々が名古屋の生きものや自然についての理解を深めました。



身近な

5月12日・13日に開かれた開設記念行事「なごや生物多様性センターへ行ってみよう!」には、2日間で延べ2,200人の市民の方々が来場。カメやサカナの調査体験や講座、ワークショップなど、さまざまな企画で自然や生きものとのふれあいを楽しみました。

ふれあった!

なごや生物多様性センターのすぐ脇を流れる植田川に入って、カメやサカナを捕獲。身近な自然にふれあえて、子どもたちは大喜び。単に楽しただけではなく、外来生物が生態系に与える影響などを真面目に学びました。



なごやのカメを捕まえてみよう

川に仕掛けたカメ罟を引き上げると、中からミシシippアカミミガメなど3種類のカメが…。捕まえたカメの特長や生態などは、「カメ博士」こと愛知学泉大学コミュニティ政策学部教授でなごや生物多様性センター長の矢部隆が説明しました。

みた!

チョウやカブトムシ、クワガタなどの標本やサカナたちが泳ぐ水槽、生きものたちのことを分かりやすく解説したパネルなども展示。生きものたちのことを見て学びました。



堀川で捕獲されたナイルティラピア



名古屋市内のため池で確認されたアサザ

堀川調査でアフリカ原産のナイルティラピアを捕獲

5月20日、日頃から堀川の保全活動に取り組んでいる皆さんとともに、生物調査を行いました。地引き網を陸に揚げる際、今にも川へ逃げようとした魚はアフリカ原産のナイルティラピアでした。ティラピアは草食性が強く養殖魚として利用されています。通常は日本の寒い冬を越すことはできませんが、温排水などにより水温が高い所では生き抜く例があり、名古屋市内でも数箇所確認されています。大きさは15~20cmの場合が多いのですが、今回、捕獲した個体は48cm。これだけ大きくなったものが捕獲されることは珍しいことです。計測のお手伝いをいただいた名古屋港水族館に展示するため運搬しましたが、残念ながら到着後、間もなく死んでしまったため、なごや生物多様性センターに資料として収めています。

なごやの生きものたちの今を伝える

広いなごやで生物とその生息生育環境について継続的に調査し、変化を含めて確認していくためには、多くの市民の皆さんと協力・協働していくことが大切だとあらためて感じています。

(市民協働推進員・宇地原 永吉)

名古屋市内では過去に生育記録がないことから、今回の調査で確認された個体群も同様に移入種(外来種)であると考えられます。

同じ種類の植物であっても、異なる地域に分布している場合には遺伝的な違いが存在することもあり、在来個体群との交雑等によって生物多様性に影響を与えるおそれがあります。そのため、生物多様性を保全していくためには、植栽や投棄によって野

外に広げないこと、植栽された個体が広範囲に広がらないよう管理することが重要です。なお、この調査で採集した個体は、なごや生物多様性センターで、腊葉標本(NP-00000001)として登録・保管しています。

(市民協働推進員・中村 肇)

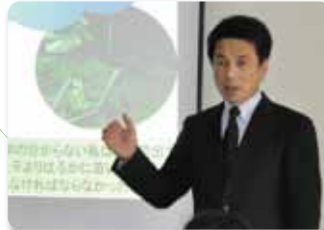
引用文献:角野康郎,1994.日本水草図鑑,PP.140-143.文一総合出版.東京
戸沢俊介・瀧崎吉伸,2012.ブルーデータブックあいち2012,PP.152.愛知県
(市民協働推進員・中村 肇)

きいた!

国際日本文化研究センター客員教員(准教授)共同研究員の森勇一さんがムシの世界を、名古屋大学博物館准教授の西田佐知子さんが植物の生態を、耕さない田んぼの学校を主宰する高山博好さんが田んぼと生きもののお話を、楽しく、分かりやすく教えてくださいました。

ムシの考古学

「土に埋もれた昆虫から歴史を読む」独自の視点でなごやの生物多様性を解き明かす森勇一さん



植物がつくる生物多様性

植物の生態や分類の謎を追って世界を飛び回る西田佐知子さん



田んぼと田んぼに住む生きもののお話

カエルやアメンボなど田んぼの生きものに詳しい高山博好さん



まなんだ!

竹を切って笛を作ったり、ちりめんじゃこに入っているいろんな生きものを探したり…ワークショップでは、「なごや生物多様性保全活動協議会」会員による楽しい企画が盛りだくさん。遊びながら、自然との関わり方を学びました。



小型標本箱作り
名古屋昆虫同好会



チリメンモンスターをさがせ!
伊勢・三河湾流域ネットワーク



アメリカザリガニ釣り
名古屋自然観察会



ダンゴムシレース
なごや東山の森づくりの会



魚釣りゲーム
環境科学調査センター



葉脈標本しおり
鳴子台中学校



竹楽器作り
雑木林研究会



街路樹でキーホルダー作り
なごや環境大学



ブラックバス
の試食会

ほかにも、タラヨウの葉、松ぼっくりなどの自然素材を使ったクラフトやスモールエイリアンの展示など、多彩な企画で彩りました。

事例紹介

隼人池公園愛護会

隼人池は平成21年10月に池干しを実施して以来、モニタリングを続けており、モツゴやイシガメなど在来生物の繁殖が確認されています。

また、かつて隼人池周辺には、名古屋市絶滅危惧IBに指定されているマメナシの群落がありました。愛護会では、池に隣接する寺院の種子による育苗、植樹にも取り組んでいます。

地域の皆さんの池に対する愛着がますます高まることを祈り、清掃はじめ日頃の活動に励んでいます。

山崎川グリーンマップ

地元の子ども会を母体として、「愛・地球博」が開催された2005年に立ち上げました。山崎川で在来の生物が年々減り続けていることを地域の人々に理解してもらうために、観察会の他、昔の様子の聞き取りを行っています。このことにより、ようやく外来生物による弊害と防除の必要性が理解されるようになりました。

今年、取りまとめた「山崎川いま・むかし2」についてのお問い合わせは a-ohya@sc.starcat.ne.jp 大矢まで。



モツゴ(オス)

マメナシ

3年前、地元小学生と植樹した「マメナシ」で成長した「マメナシ」と手入れのリーダー的存在、金子郁子さん



水に浸かって生きもの観察

「山崎川いま・むかし2」

生物多様性に向けての取組事例をお寄せください。このニュースで紹介していきます。(すべて掲載できない場合もありますので、ご了承ください)